

キルデンファーストのふじさわのまちへ！ 東木ひさよ



ニコニコ通信 第19号

子ども・若者への支援は未来の投資です！

H28年12月定例議会。

子ども・若者は未来の宝・地域の宝です。「生きている、ただそれだけで祝福される、そんな居場所をみんなで創りたい」温かな心溢れるふじさわの各地域に、子どもの居場所づくりが進むよう訴えました！



「笑顔あふれる子ども達」の安心の居場所づくりを推進！



ユニセフの調査によると「孤独を感じる」と答えた日本の子どもは約30%。断トツ世界一です。大きすぎる期待を重圧に感じたり、一方で、家庭の困窮を一身に抱えていたり…。子ども若者にとって生きづらい時代を迎えているのでしょうか。すべての子どもたちが、伸び伸びと笑顔で過ごせるように、特に地域が見守る中での「居場所づくり」が重要だと思います。

「放課後子ども教室」の「かめっこひろば」（亀井野小学校）と「小糸っ子」（小糸小学校）は地域の方々が見守る中で、学校施設を活用して、子どもたちが自由に遊べる安心の居場所です。他の学校にも早期拡充を訴えてきました。

市側の回答

要望・提案

- 1) 学校施設内で地域住民が見守る「放課後子ども教室」の拡充
- 2) 児童館や放課後子ども教室の開設時間（現在の夕方5時閉館）の延長！
- 3) 児童クラブの利用料金の見直し
- 4) 「子ども食堂」へのサポートと拡大
- 5) シニア世代の子ども応援へのコーディネート

- 1) 「平成31年度までに新たに3か所の実施を目指します
- 2) 帰宅時の安全確認など、課題を整理し、早期実現に向けて検討します。
- 3) 施設拡充の計画達成後に検討します。
- 4) 野菜を提供や学校などに情報提供するなど後方支援を進める
- 5) 子ども応援に携わりたい方をコーディネートする仕組みを構築します。

現在、子どもたちが誰でも利用できる「子ども食堂」が市内で6か所、地域や大学生が自主的に開設して下さり好評です。JAさがみと連携して農家から野菜を提供していただいたりしていますが、さらに社会福祉法人施設の開放等、場所の確保や運営などの更なる支援を要望しました。また、「子どもを応援したい」と思っているシニア世代の方々の、潜在的パワーを発揮できるような仕組みや環境づくりを要望しました。



子ども・若者への支援は未来への投資です！



「給付型奨学金」50年前からの訴えが実現！

(2017年4月より下宿住まいの私立大生のみ実施されます)

『学び続けられる未来を！』と、公明党が50年前から訴えてきた「給付型奨学金」が実現！国として2018年から実施されます。対象者は住民税非課税世帯で高校から推薦を受けた方、各学校1名程度、1学年につき2万人規模。毎月2~4万円支給される予定です。

私立・自宅外	→月4万円
国公立・自宅外	→月3万円
私立・自宅	→月3万円
国公立・自宅	→月2万円

その他、無利子奨学金についても、2017年度から住民非課税世帯の、成績要件を実質的に撤廃され2万人の方が受給できると見込まれています。さらには、新たな「所得連動返還型奨学金」が導入。卒業後の返還額を軽減し、安心して、仕事ができるよう、支援を進めてまいります。



「藤沢市独自の給付型奨学金」も創設！

藤沢市としても独自で返済不要の「給付型奨学金制度」を創設！2018年4月の運用開始。対象は「生活保護世帯」「住民税非課税世帯」「児童養護施設」の方々。成績基準は5段階評価で3,1以上の方が対象。入学準備金30万円、毎月学費6万円を4年間支給。また、在学中、市職員との面談しながら、経済的な理由で夢をあきらめてしまわないように、全力で応援します！

「中学卒業までの小児医療費無償化実現へ、大きく前進！」

現在、小児医療費無償化について、中学生は卒業ですが、通院については小学校卒業まで。しかし、教育費も増大し、慢性的な疾患など通院も大きな負担、通院含めての無償化拡大を求めてきました。今回の定例会で、「現在、社会的問題となっている子どもの貧困対策等の視点も含め、財源を確保する中で、対象年齢を中学校3年生まで拡大していく」との、方針が明確に示されました。大きく前進です！実現するまで、粘り強く推進してまいります。

東木ひさよフェイスブックQRコード



東木ひさよプロフィール

藤沢市議会議員2期、北海道旭川市出身、道立旭川東高、明治学院大学卒
※2016年度は、総務常任委員会副委員長、議会運営委員会副委員長に就任。
その他、行政改革特別委員会委員。

連絡先：自宅TEL・fax88-1125 PCアドレスhisayo2011@yahoo.co.jp

